

## インタビュー

琉球大学医学部 第2内科

益崎 裕章 教授

### Q1. 平成21年10月1日、教授就任から約10カ月が経ちましたが、沖縄の印象は如何ですか。

沖縄県の皆様は本当に優しく、謙虚・控え目で、和を重んじ、相手のことを気遣い、相手の立場に立って配慮できる方が殆どです。日本人が とうの昔に置き忘れてしまった大切なものが琉球の地に しっかりと息づいていることに感動しています。面白い雲のかたち、幻想的な海の色、朝陽や夕陽の雄大な眺め、気まぐれな御天気…。どれもこれも京都では味わえなかった素敵な不思議体験であり、この地には この地を治める “琉球の神様” が いらっしやることを感じます。沖縄は 私の専門分野である糖尿病や肥満症の患者さんが飛びぬけて多い場所であることも印象深いです。琉球大学 第二内科の皆さん、琉球大学医学部 医学科や保健学科の学生さん達、琉球大病院・医学部の先生方、九階西病棟の多和田久美子 師長さん・看護師さん達、沖縄県医師会の先生方はじめ 周りの皆さんに とても可愛がって戴き、毎日が本当に幸せです。

### Q2. 先生のご専門、教室の診療体制について教えて下さい。

私は内分泌代謝学、特に糖尿病や肥満症の臨床・教育・研究を専門にしております。私の出身教室である 京都大学 第二内科 は日本内分泌学会を創始した教室でもあり、糖尿病や肥満症に加え、間脳下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、骨カルシウム代謝異常、性腺疾患、動脈硬化性疾患、加齢関連疾患の臨床と教育に携わっております。現在、琉球大学第二内科は、内分泌代謝内科グループ、難治性不整脈に対する高度先進医療を担当する循環器不整脈グループ、血液内科グループの三チームが緊密な連携のもとに活動しており、また、従来、琉球大学 医学部附属病院の三つの内科学教室の中で担当科が空白となっておりました膠原病リウマチ内科に関しましても 今後、第二内科で担当すべく 鋭意、陣容整備を進めているところです。琉球大学第二内科は 日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本甲状腺学会、日本循環器病学会、日本老年医学会の専門医・研修指導医の養成・研修施設として認定されており、日本肥満学会の “肥満症 専門診療施設” にも沖縄県で唯一、認定されております。

### Q3. 第2内科ではこれまで多くの血液疾患患者を治療してきました。県民の期待の大きい血液疾患患者に対する今後の方針について教えて下さい。

私達の教室は従来、沖縄県の血液内科診療を担う多数の優れた人材を育成してまいりましたが、先頃、琉球大学医学部に骨髓移植センターが開設されましたことを契機に、第二内科病棟でも本年四月より血液内科診療を復活させることが出来ました。診療准教授

の友寄 毅昭先生、特命助教の奥平 多恵子先生の御二人を核として 骨髄移植を含む血液内科先進医療・教育・研究に真正面から取り組み、沖縄県全域の血液内科診療における責任を果たし、存在感とリーダーシップを存分に発揮していきたいと考えております。

#### Q4. 人材育成を重視されていますが、教室の理念、基本方針を教えてください。

医師は生涯にわたってたくさんの患者さんから喜ばれ、感謝される素晴らしい仕事です。教室では ひとり、ひとりが 医師としての誇りと喜びにあふれた 輝き続ける幸せな医療人であることを目指し、人間教育を最重要視しています。第二内科・9階西病棟の病棟目標は(1)患者さんに安心と満足を届けるために質の高いチーム医療と優しさ溢れる温かい看護を実践する、(2)この病棟に入院して本当に良かった！と患者さんに実感して戴ける心安らぐ快適な病棟を創る、(3)この病棟で仕事が出来て本当に幸せ！と医療スタッフが実感できる働き甲斐に満ちた病棟を創る、という三点に集約していません。医療・医学が凄まじい勢いで進歩し、複雑化していく中で、医療チームの目指すべきゴールが曖昧なまま、漫然と 同じことを繰り返す日常に陥ったとすれば それは 医療人の疲弊を生み、やがては医療崩壊を もたらします。医療人は健康モデル。私達が幸せそうに、楽しそうに歩んでいなければ 良い医療や良い看護を届けることは絶対に出来ません。私達は 一緒に仕事出来る御縁を大切にしながら、ゴールや目標を明確に意識した日々のチーム活動が患者さんの満足・安心につながり、新しい医療の開発にも つながっていく という生き活きとしたビジョンを共有しています。そして、ひとり、ひとりが“個性と得意”を活かして成長し、魂のレベルを向上させ、喜ばれることを喜びとし、キラキラと輝き続けることを目指しています。第二内科の日々の活動は公式ホームページ、<http://www.ryudai2nai.com>にて御覧戴けましたら嬉しく思います。コンテンツは常時、更新されており、おそらく二時間以上、たっぴりと楽しんで戴けるものと思います。

#### Q5. 先生の趣味を教えてください。

旅、音楽、美食探訪です。

#### Q6. 座右の銘がありましたら教えてください。

生き残った種(しゅ)は 強い種でも 大きな種 でもない。

(環境に適應して) 変化(進化)を遂げた種 だけ だ。

(『種の起源』より。 チャールズ・ダーウィン 英国(1809年~1882年))